

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 中央 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	24人	算数	24人	理科	24人
第5学年	国語	29人	算数	29人	理科	29人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

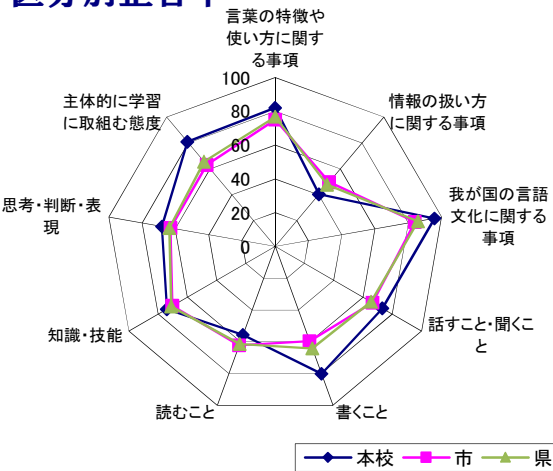
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	82.1	75.1	76.7
	情報の扱い方にに関する事項	40.3	49.6	47.8
	我が国の言語文化にに関する事項	95.8	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	73.3	66.5	65.5
	書くこと	80.2	59.6	64.2
	読むこと	55.6	62.2	61.5
観点	知識・技能	74.1	70.2	71.1
	思考・判断・表現	68.1	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	80.8	63.0	65.5



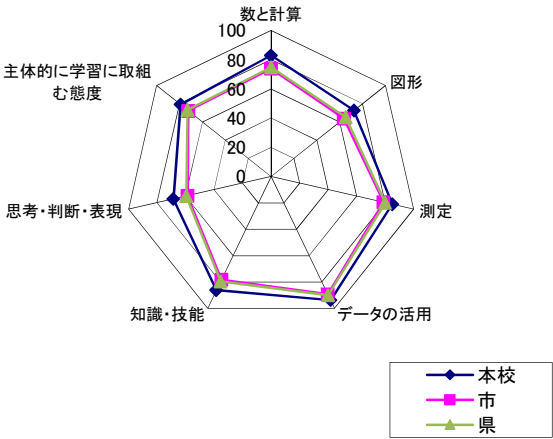
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○漢字を正しく読む設問は、平均正答率95.8%で力が身に付いてきたと考えられる。主語、述語の理解についての設問及び、ローマ字で表記されたものを正しく読む設問では、それぞれ79.2%と95.8%の正答率で、基礎的な力が身に付いてきたと思われる。 ●言葉の使い方の設問では、83.3%と県の正答率よりも3.2ポイント下回った。日常生活の中で語彙力を増やしていくことが課題である。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も引き続き漢字練習の課題やステップアップテスト、小テストなどを計画的に行ったり、間違った漢字の訂正を確実にしたりすることで、漢字の読み書きの力を定着できるようにする。 ・朝の学習や読書週間のときに読書の呼びかけをしたり、家庭学習等で読書を推奨したりし、語彙力を向上できるようにする。 ・語彙力を身に付けるために、意味が分からない言葉があったらその都度、国語辞典やタブレットなどで調べる習慣をつけるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	○情報と情報との関係について理解し、話し手が伝えたいことの中心を捉える設問は、45.8%と県の平均を8.9ポイント上回った。話し手の中心を捉える力が身に付いてきたと思われる。 ●国語辞典の使い方にに関する設問や、情報と情報との関係について理解し、中心となる語を見付け要約する設問では、どちらも45.8%と29.2%と低く、国語辞典を正しく使ったり、文章から内容を表すキーワードを見付けたりする力の育成が今後の課題である。	・今後も継続して国語辞典の使い方を確認したり、言葉の意味調べの課題に取り組んだりしていく。また、タブレットを積極的に活用し、意味調べの他に言葉の正しい表記の確認などに使用していく。 ・情報を取捨選択し活用できる力を高められるよう、各教科の調べ学習等を生かし、正しく情報を捉えられるよう引き続き指導していく。
我が国の言語文化にに関する事項	○漢字のへんやつくりに関する設問は平均正答率は95.8%で、市の平均を11.8ポイント、県の平均を9.9ポイント上回った。漢字のへんやつくりについての知識を習得できていると考えられる。	・漢字ドリルやデジタル教科書で新出漢字の学習をするとき、今後も継続して漢字の部首や成り立ちなども確認する。また、既習の漢字の部首についても繰り返し復習することで、定着を図る。
話すこと・聞くこと	○話し手が伝えたいことの中心を捉える設問では平均正答率95.8%、自分の考えを理由を挙げながら書く設問では100%と、話し手の中心内容を聞き取ったり、自分の考えを理由を付けて書いたりする力が伸びてきていると思われる。 ●話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える設問では、平均正答率75.0%と県の正答率を5ポイント下回った。話の内容を適切に聞き取り理解することが今後の課題である。	・話し合い活動や1分間スピーチ等で発表者が話した内容をクラス全体、もしくは小グループ等で確認する時間を設け、話を最後まで聞き取り理解する力を伸ばしていく。 ・話の中心や話す場面を意識して話すように指導するとともに、話し方の工夫を捉えながら継続的に伝え合う活動を取り入れるなど、言語活動の充実を目指す。
書くこと	○自分の考えを明確にして書く、自分の考えとそれに基づく理由や事例も付けて文章を書く設問では、平均正答率は91.7%、87.5%と県の正答率を上回り、根拠をもって自分の考えを書く力が伸びてきている。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く設問は、平均正答率は66.7%と県の正答率は上回っているものの他の設問に比べて低い。段落構成を踏まえて文章にまとめる力の向上が今後の課題である。	・文字数や段落構成を意識して書く指導を、作文や感想文を書くときに繰り返し行う。 ・文章を書く前に、文章全体の段落構成を考えるように繰り返し指導していく。 ・各行事の振り返りや日記指導を継続して行うことで、書くことに対する抵抗感をなくし、意欲的に取り組めるようにする。
読むこと	○叙述を基に段落の内容を捉える、文章の内容を捉える設問では、平均正答率は91.7%と高く、段落ごとに読み取る力が身に付いてきている。 ●物語文の内容を読み取る設問では、平均正答率45.8%と県の正答率を下回っている。登場人物の気持ちや場面の様子について読み取る力の育成が今後の課題である。	・説明文の学習では、段落ごとの要点を捉えたり、段落相互の役割や関係を理解したりしながら、論理性を読み取っていくように指導する。 ・物語文の学習では、登場人物や場面の状況について話し合い活動を取り入れ、多面的・多角的に読む力の育成を図っていく。また、段落の関係性にも注意して指導を行う。

宇都宮市立中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	82.9	73.8	74.8
	図形	72.5	63.7	65.3
	測定	85.0	78.9	80.1
	データの活用	93.8	89.3	90.0
観点	知識・技能	86.2	78.3	79.5
	思考・判断・表現	68.5	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	79.2	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

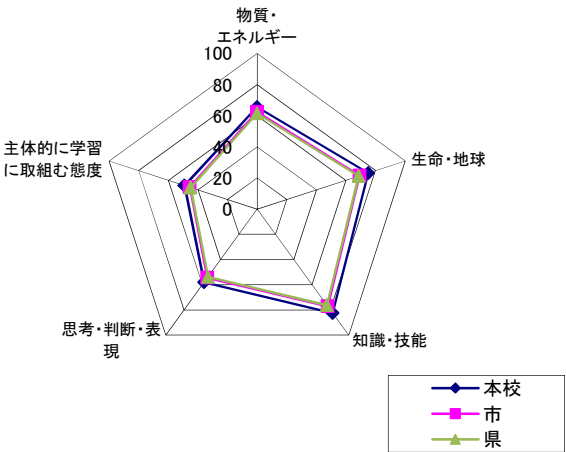
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、市・県を大きく上回った。特に、わり算の計算や分数の計算については正答率が100%であり、数の相対的な大きさについても高い正答率となっていて、基礎的な学習については定着化が図られている。 ●大きい数のたし算・ひき算やわり算の文章問題で県の正答率を下回っている。活用問題を苦手としていることがわかる。	・習熟度別学習を生かして、個に応じた指導の充実を図る。 ・家庭学習や朝の学習の時間を活用して繰り返し既習問題に取り組み、再度見直す時間を作ることで、計算力の向上に努める。
図形	○平均正答率は、市・県を大きく上回った。二等辺三角形の作図の正答率は100%であり、円と球の問題でも、県をの平均正答率を上回っていて、理解していることがわかる。 ●円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明する問題では、県の正答率を上回っているものの、20.8%と正答率は低く、理由とともに考えを説明することに課題が見られる。	・朝の学習や家庭学習を活用し、三角形や円を描く作業を通して、コンパスの扱い方に慣れることで、技能の正確性を高めていくとともに、半径と直径の関係や、円を切り取った形などの理解を深める。
測定	○平均正答率は、市や県より5ポイント程度上回った。2つの間の時間を求める問題については6.2ポイント、道のりを読み取ってその和を求める問題については6.3ポイント、県の平均を上回った。また、身近にあるものの重さを推測して、適切な単位を使って表す問題では、正答率が県を上回っており、量の感覚が身についている。	・普段から、生活の中で見られる重さや長さに着目させ、単位を換算したり、測定したりして、数学的に表現、処理するよさに気付かせるとともに、測り方の定着を図る。
データの活用	○平均正答率は、市や県より3～5ポイント上回った。棒グラフの1目盛り大きさを答える問題では、正答率が95%を超えており、基礎学力が定着していると考えられる。	・算数だけでなく、理科などでも、棒グラフから様々な情報を正確に読み取り、それを基に分かったことや考えたことを言葉に表す学習を継続的かつ日常的に実施していくことで、基礎的な学力を生かして活用する力の定着を図る。 ・対話的な活動を通して、表やグラフを分析して考察し、数理的な処理のよさに気付かせ、生活に活用していく力を定着させる。

宇都宮市立中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.6	62.5	61.5
	生命・地球	75.0	69.2	68.6
観点	知識・技能	82.5	77.2	76.3
	思考・判断・表現	58.1	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	49.0	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は、市より3.1ポイント、県より4.1ポイント上回った。特に、電気を通す物と通さない物を区別する設問では、県の正答率を20ポイント上回った。また、虫眼鏡で集めた光の性質を問う設問では県より16.6ポイント高いなど、基礎基本を問う問題のほとんどが県の正答率を上回った。 ●磁石と方位磁針の関係を確かめる設問では、県より22.4ポイント下回った。長い説明文を読み、カッコにあてはまる言葉を記述することについて課題が見られる。	・基礎的な用語を丁寧におさえ、知識の定着を図る。 ・実験結果などを分析・考察する場面では、文章や図で表す学習活動を設定することで思考力・判断力・表現力の向上を図る。 ・プリントやタブレットを活用し、復習したり、説明文が長い文章の問題に取り組んだりする時間を確保する。
生命・地球	○平均正答率は、市より5.8ポイント、県より6.4ポイント上回った。特に、体の特徴から昆虫か昆虫でないかを判断する問題に関しては、県の正答率を20.4ポイント上回っていた。また、昆虫に関連した問題はすべて県の平均を上回っており、知識が定着している。 ●太陽と地面の様子の問題における記述問題の正答率が県の正答率をやや下回った。	・基礎的な用語を丁寧におさえ、知識の定着を図る。 ・授業の中で、一人一人が実際に観察・実験をする活動を十分に確保し、体験的な学習ができるようにする。 ・タブレットを有効活用して時間や時期による変化を画像や動画示すことで分析や考察のための一助とし、思考力の向上を図る。

宇都宮市立中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的回答率は、県や市よりも10ポイント以上上回り、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」は県や市よりも6ポイント以上上回った。グループやペア、全体で話し合ったり、タブレットを用いて協働的な学習をしたりした成果だと考えられる。今後も継続して考えを深めたり広げたりできるような指導をしていきたい。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の肯定的回答率は83.3%で市や県よりも20ポイント以上も上回っている。また、「自分のよさを人のために生かしたい」「自分がもっている能力を十分に発揮したい」の肯定的回答率は、どちらも市や県よりも5ポイント以上上回っている。当番活動や係活動など、日々の生活における自分の役割を自覚し、前向きな気持ちで活動してきた成果だと考えられる。今後も児童の個性を生かせるような活動や場面を意図的に増やし、児童の自己肯定感向上につなげたい。

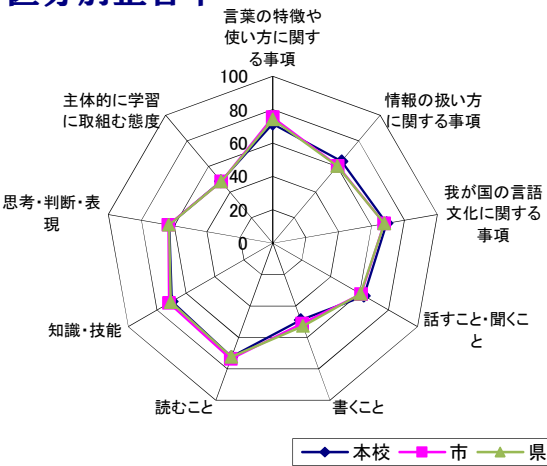
●「家で、学校の宿題をしている」で肯定的回答率100%だったが、家で、「自分で計画を立てて勉強している」「学校の授業の予習をしている」「学校の授業の復習をしている」「テストで間違えた問題について勉強をしている」における肯定的回答率は、いずれも市、県の平均を大きく下回った。本学級の学習面における実態から宿題の内容を軽度に行っていることから、本校で実施している家庭学習マイプランの実施方法を見直し、学習方法を紹介するなどして、自主学習の充実を図りたい。

●「早寝早起きを心がけている」の肯定的回答率は、66.7%で県や市よりも10ポイント以上下回った。また、平日の動画視聴時間やゲームの使用時間を問う設問では、いずれも「4時間以上」と回答した児童の割合がもっとも高く、平日のスマートフォンの使用時間が1時間以上と回答している児童の割合は県や市よりも10ポイント以上上回った。日々の生活指導や市で実施しているノースマホデーだけでなく、学級懇談会や学年だよりで家庭にも啓発を図り、正しい生活習慣について連携して指導していきたい。

宇都宮市立中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	71.5	75.4	74.1
	情報の扱い方にに関する事項	64.1	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	69.2	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	63.1	61.0	60.7
	書くこと	49.0	51.2	52.8
	読むこと	72.4	73.7	72.4
観点	知識・技能	69.8	71.7	70.6
	思考・判断・表現	63.1	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	48.5	48.2	48.1



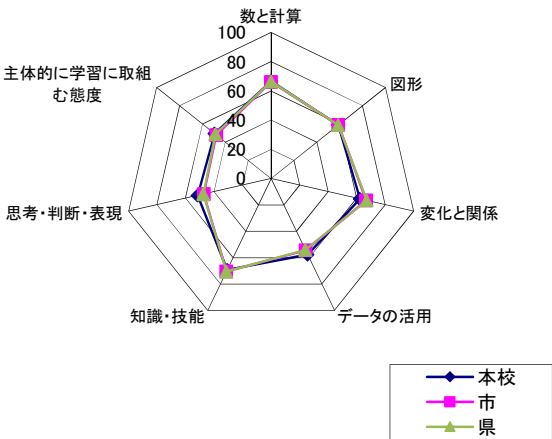
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○漢字を読む設問では、正答率92.3%と漢字を正しく読む力が身についてきたと思われる。 ●修飾語に関する設問、及び、文章を書く設問に関しては平均正答率が県の平均よりも下回っており学習内容の理解に課題が見られる。文章の構成要素や修飾語に関する学習の習熟を図る必要がある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの AI型ドリルやデジタル教科書の教材コンテンツを活用し、漢字の読み方、書き順などを主体的に確認できる学習環境を整えていく。 ・教科書の問題、ワークシート、AIドリル等を活用するなど、様々な学習方法で学習を繰り返すことで、文章の構成や修飾語の理解を深めていけるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	○漢字辞典の使い方にに関する設問では、正答率88.5%と県の正答率より上回っており、漢字辞典の使い方を理解していると思われる。 ●「文章を抜き出す」「指定された文字数でまとめる」ことに関する設問では、正答率は県の平均を上回っているが学習内容の理解に課題が見られる。「文章から中心となる語や文を見つけ、要約する」、「調査結果など、情報を理解し、理由や事例を挙げながらまとめる」力をつけていくことが今後の課題である。	・「中心となる文章を抜き出す」「指定された文字数の語や文を探す」「要約する」など、段階的に学習することで、文章の中の情報を正しく理解できるようにしていく。 ・他教科の学習など、様々な場面で情報の整理、要約を行う活動を取り入れていく。
我が国の言語文化に関する事項	●ことわざに関する設問では、正答率69.2%と県の正答率を上回っているが、ことわざの意味などの理解は十分ではない。ことわざの意味を知り、正しく使っていく力の育成が今後の課題である。	・学校図書やインターネットを活用し、ことわざの知識を増やしていく。また、ことわざをはじめとする言語文化に興味関心をもつことができるようにする。
話すこと・聞くこと	○話し合いの内容を聞き取り、話し手が伝えたいことの中心をとらえる設問では、正答率92.3%で県の正答率を上回った。話し合いの内容をとらえる力は定着している。 ●意見の相違点や共通点に着目して考えをまとめる設問での、県の正答率を0.3%下回った。話し合いから意見の共通点や相違点に気づき、意見に対する自分の考えをまとめる力の育成が今後の課題である。	・小グループでの話し合い活動の中で、友達の意見を聞き、自分の意見と比べる場面を設定する。自分と友達の意見の共通点と相違点に着目することで、意見をまとめる力の向上を図る。
書くこと	●平均正答率が49.0%で県の平均正答率を下回った。2段落構成など、段落の役割の理解や「いつ」「だれが」「どこで」「なにをした」など、内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書くなど、取材メモに基づく文章構成力を身に付け、文字数など条件に沿った文章を書く力の育成が課題である。	・文字数や文章構成など、指定された条件で文章を書く活動を、国語だけでなく様々な学習場面で継続して行うことで書く力の向上を図る。
読むこと	○物語の内容を読み取る設問では、「登場人物の性格などを具体的に想像する」、「文章を読んで感じ取ったことや考えたことを共有する」内容では、双方正答率92.3%と、県の正答率より上回った。物語の内容を理解したり、人物や状況を想像する力は身についていると思われる。 ●説明文の内容を読み取る設問では、平均正答率が64.1%と県平均を下回った。「説明文の内容を読み取る」、「中心となる語や文から内容を要約する」力の育成が課題である。	・朝の読書時間など、物語や説明文を含む本を読む時間を確保するなど、本に触れる機会を設定していく。 ・説明文において、内容を読み取るステップとして、中心となる文や語を見つけ、内容を要約できるよう、段階的に説明文を読み取る力の育成を図る。

宇都宮市立中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.6	66.1	66.4
	図形	58.8	58.9	58.8
	変化と関係	62.3	66.6	67.0
	データの活用	57.7	54.4	54.2
観点	知識・技能	69.2	70.4	70.6
	思考・判断・表現	51.5	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	49.5	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

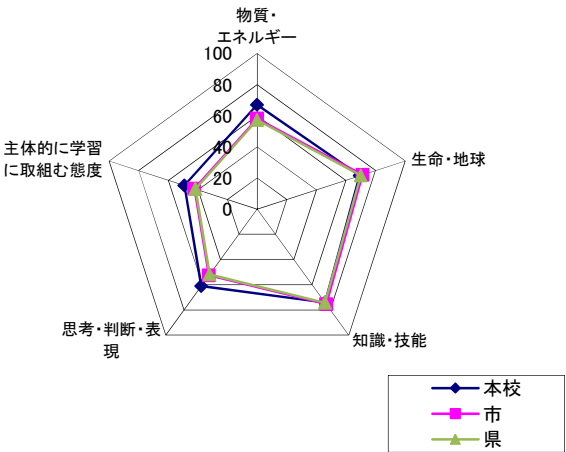
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本校の平均正答率は66.6%で、市や県の平均をやや上回った。特に、分配法則を使って工夫して計算のする設問では、平均正答率が65.4%と、県の平均を17.3ポイント上回っている。基礎基本的な計算力が身に付いている。 ●与えられた分数を数直線上に示す設問では、平均正答率が80.8%と、県の平均を11.1ポイント下回った。分数の問題で課題が見られる。	・習熟度別学習を生かして、個に応じた指導の充実を図る。 ・宿題や小テストなどで繰り返し問題に取り組み、基礎基本的な計算力の向上に努める。 ・言葉で説明をする問題に課題が見られるため、自分の考えをノートにまとめるなど、数学的見方・考え方の育成に努める。
図形	○角の大きさを求める設問では、2問とも県の平均正答率を上回った。分度器の中に示された角の大きさの目盛りを読み取ったり、360度より小さい角の大きさを求めたりすることができるなど、角の大きさについての理解が定着している。 ●面積について、単位の関係の説明する設問では、平均正答率が15.4%と低かった。また、平行四辺形の作図についても、平均正答率が53.8%と、県の平均より6.5ポイント下回った。図形の面積を求める問題や作図の問題に課題が見られる。	・引き続き、どこの角に着目して課題解決をしていくのかということを考えさせながら、様々な問題に取り組ませていく。 ・作図の仕方について、図形の特徴や性質、きまりなどの既習事項を確認して、様々な問題に取り組ませることで定着を図る。
変化と関係	●平均正答率は62.3%で、市や県の平均よりも約5ポイント下回った。特に、2つの数量の関係をもとの何倍になったかを考えて比べる設問の平均正答率は50.0%で、県の平均より12.3ポイント低かった。もとの何倍になったかを考えて比べる問題やそれをテープ図で表す問題で課題が見られる。	・学習活動の中で、言葉と図や式を関連付けて考える数学的活動を取り入れ、実感を伴った学びにつなげる。 ・割合を示す表現の中から、基準量や比較量を明確に捉えさせ、筋道を立てて考えたり、問題に取り組ませたりして定着を図る。
データの活用	○平均正答率は57.7%で、市や県の平均よりも3ポイント上回った。2つの折れ線グラフや二次元表から必要なことを読み取る設問では、ともに県の平均を上回った。(折れ線グラフ7.7ポイント、二次元表2.2ポイント) ●読み取ったことから求め方を説明する設問では、平均正答率が40%を下回った。データを読み取る力は定着しているが、説明する力に課題が見られる。	・算数だけでなく、理科などでも、棒グラフから様々な情報を正確に読み取り、それをもとに分かったことや考えたことを言葉に表す学習を継続的かつ日常的に実施していくことで、基礎的な学力を生かして活用する力の定着を図る。 ・数学的活動を通して、表やグラフを分析して考察し、数理的な処理のよさに気付かせ、生活に活用していく力を定着させる。

宇都宮市立中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	67.0	58.1	57.2
	生命・地球	69.2	71.1	70.0
観点	知識・技能	74.2	75.5	74.4
	思考・判断・表現	61.0	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	49.1	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は県・市の平均よりも9ポイント以上上回った。物の体積と力に関する設問では、注射器で空気や水をおし縮めたときの体積の大きさを考える問題について、80%の児童が理解していた。また、気泡シートが閉じ込められた空気のどのような性質を利用しているかの説明に対しても県の正答率よりも15ポイント以上上回った。 ●電気の働きの、電流を強くする回路の作図では、県の平均の値を上回ってはいるものの50.0%の正答率であった。学んだことについて理解はしているが、それを相手に説明する力は十分とは言えない。	・今後もできる限り個々に実験用具を用意し、自分のペースで取り組み、自分が見つけた課題を追求し学びを深められるように努めていく。 ・実験で得られた結果について、ペアやグループ、クラス全体での意見の交換の時間を充実させたり、振り返りの時間等に、自分の言葉でまとめたりする活動を大切に、理解を確実なものにできるようにしていく。
生命・地球	○1年間の植物の成長の様子の問題では、県の正答率を15%上回った。季節と桜の様子の関係をよく理解し、季節の順に選ぶことができた。1年間桜の観察をしてきたことが考えられる。 ●図中で示された方位について憶測する問題では65.4%の正答率で、県の平均を10.9ポイント下回った。地図上における八方位についての理解はしているが、それを実際の場面で使えていない結果がでたように思う。	・児童が対象である自然の事物・現象に意欲を高め、主体的に追及していくことができるように、自然の事物・現象の提示の仕方を工夫していく。また、主体的な追及を意識させるためにははっきりとめあてをもって授業に取り組ませるようにする。 ・授業で学んだことを実生活の中で生かしていくように、具体的な場面を例示していくように努める。

宇都宮市立中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「クラスは発言しやすいふん囲気である」の肯定回答率が61.5%で県や市の平均より10ポイント以上上回った。クラスの一人一人が友達との違いを受け入れ、個性を認めていることが考えられる。今後も学級活動や授業での対話を通して、お互いの話をじっくりと聞く活動を積極的に取り入れていきたい。

○「勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある」「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」についての肯定的回答率が、どの項目も市と県の平均を上回った。本校で取り組んでいる主体的に取り組み、共に学び合う児童の育成に対する成果が表れたと考える。今後も、児童の学びを深めることのできる指導をしていきたい。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」と答えた児童は23.1%で市の平均より1.7ポイント下回り、「自分は勉強ができる方だと思う」と答えた児童は15.4%で、市の平均より6.3ポイント下回った。自信のなさや自己肯定感の低さが窺える。学習面では基礎の積み重ねを行うことで少しずつ自信を高め、生活面では日頃の委員会活動や係活動など様々な場面で認め励ます場を設けることで、児童の自己肯定感の向上を図ってきたい。

●「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」についての肯定的回答率が、どの項目も市や県の平均を下回った。粘り強く主体的に学習に取り組むことができるよう、子どもが自分で考えることを大切に授業を展開するとともに、習熟の程度に応じたきめ細やかな指導を実践していく。そして、子どもが他者との協働を通じて自分の考えを比較・検討する場面の中で、分からないことがあった時に様々な手段を用いて自分の力で調べることができるよう指導に努めていきたい。

宇都宮市立中央小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める課題設定の工夫	児童が「知りたい」「解決したい」という探究的要求をもてるような「課題」の設定や提示の工夫をしている。	・「国語の勉強が好きか」という質問に肯定的回答をした児童は、5年生が61.5%で市や県を下回っているが、4年生が70.8%で市や県を上回っている。 ・「算数の勉強が好きか」という質問に肯定的回答をした児童が5年生は65.4%で、県の平均を上回っているが、市の平均下回っている。4年生は75.0%で、市や県の平均を上回っている。 ・国語を中心に、引き続き課題設定の工夫に取り組んでいきたい。
考えを広げ深めるための学び合い活動の工夫	対話的な学び合いのための活動の設定を工夫して、友達との考えの交流から自分の考えを広げたり、深めたりできるような指導を目指している。 また、学びの深まりを自覚する振り返り活動の工夫をしている。	・「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」についての肯定的回答の割合は、5年生80.8%、4年生83.4%と市や県を上回っている。
基礎的な学習内容の定着のための取組	少人数指導や全教員による朝の学習支援、定期的なステップアップテストの実施、AIDリルの活用などにより、学習内容の定着を図っている。	・国語の「知識・技能」の問題についての平均正答率は、5年生で69.8%、4年生で74.1%、算数の「知識・技能」の問題についての平均正答率は、5年生で69.2%、86.2%である。5年生はいずれも市や県の平均を下回っているが、4年生は市や県の平均を上回っている。
家庭学習の充実と習慣化のための指導の工夫	全学年「家庭学習マイプラン」による家庭学習の記録を行い、家庭での学習意欲を高めたり、自主的に学習に取り組む習慣をつけられるように指導している。 また、「家読」を行い、家庭での読書習慣の定着を目指している。	・「家で自分で計画を立てて勉強している」という質問の肯定的回答をした児童は5年生は69.3%、4年生は62.5%で市や県の平均を下回った。 ・家で予習や復習すると答えた児童も国や市の平均を下回っている。 ・家で毎日10分以上読書をする答えた5年生児童は65.4%で、市の平均をわずかに上回ったが、県の平均よりは2.2ポイント下回っている。また、「全く読まない」と答えた割合も高い。4年生は、市や県の平均を上回っており、「全く読まない」と答えた児童の割合は低い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と答えている児童が4・5年生とも60%を超えており、市や県の平均も上回っている。	言語活動の充実	・話すために、自分の考えを持つための時間を十分に確保する。 ・話し合いを通して深まった自分の考えを振り返り活動などで記録する。 ・教師が児童の学びをコーディネートしていく。 ・自分の考えがうまく伝えたり、まとめたりできるようICT機器を効果的に活用していく。